トヨテック製 自動給紙カッティングプロッタ「DG-5070Ⅱ／Plus」導入事例

Indigoの後加工で活用

大サイズ・小ロットパッケージ市場に進出

アナログからデジタルへのビジネスモデル転換により新市場への進出を目指す柏村印刷㈱（本社／島根県浜田市、柏村英男社長）が新たな挑戦を開始した。同社は2023年11月、デジタル印刷機「Indigo12000」の後加工機として、トヨテック製の自動給紙カッティングプロッタ「DG-5070Ⅱ／Plus」ほか、PP加工ラミネーター、デジタルスポットニス加工機など、デジタル印刷対応の後加工機を一挙に導入し、大サイズ・小ロットのオリジナルパッケージというニッチな市場への進出に乗り出した。

柏村印刷

同社は1912年に創業し、今年で112周年を迎える老舗の印刷会社。商業印刷を中心とした総合印刷会社としてクライアントの信頼を築いてきたが、2020年6月にB2サイズのデジタル印刷機「Indigo12000」を導入し、従来のアナログからデジタルへのビジネスモデル転換を図った。しかし、「コロナ禍により、思うように動けなかった」（D・D事業部 取締役時、厚紙も通るIndigoにより、小ロットオリジナルパッケージを作ることが当社の競争力を最大限に発揮できる戦略だと考えた」と説明する。

そして、同社は2023年11月に一連のデジタル印刷対応の後加工機を導入。現在は、Indigo12000で印刷後、PP加工、スポットニス加工、最後にカッティングプロッタ「DG-5070Ⅱ／Plus」でカッティングと筋入れを行うことで、大判サイズ小ロットオリジナルパッケージの制作を実現している。

コロナの戦略として2023年初頭に打ち出したのが、Indigo12000を活用した大サイズ・小ロットオリジナルパッケージへの取り組みだ。

今回の新市場参入について、浜咲取締役は「デジタル印刷市場にA3サイズは溢れている中、当社が強みとできるのはB2という大判サイズに対応できることだ。そしてそれをメインに考えた」（D・D事業部 取締役事業開発部長の浜咲幸司氏）という中、アフターコロナの戦略として2023年初頭に打ち出したのが、Indigo12000を活用した大サイズ・小ロットオリジナルパッケージへの取り組みだ。

DG-5070II-Plus（手前）とIndigo12000（奥）

同社では、このサービスで300～500部のパッケージを制作していくことで、クライアントのビジネスを成功に導いていきたい」と今後の受注拡大に自信を示す。同サービスの最大の特徴は「高付加価値」であり、スポットニスを塗ったり、金や銀をワンポイントで入れたり、組み箱や貼り箱も協力会社と連携して制作することが可能である。消耗品として商品を傷めずに消費者に届けるための箱ではなく、「もらって嬉しい箱」であることがコンセプトだ。浜咲取締役は「包装紙材としてでなく、箱だけで喜んでもらえるパッケージを作っていきたい」と話している。

B2サイズ対応と自動給紙、ユーザビリティが導入の決め手に

同社はカッティングの設備を導入するにあたり、展示会を視察しカッティングプロッターだけでなく、レーザー加工機やダイカッターなども含めて検討した。Indigo12000の後加工機としてB2サイズに対応することは絶対条件であったが、レーザー加工機はA3ノビがカッティングできるかどうかのサイズで小さく、ダイカッターはスペースもとり、木型を作るための能力が必要になることが分かり、素人には難しいと判断。その結果、「ノウハウ不要のユーザビリティでB2サイズに対応し、さらに自動給紙という利便性により、最終的にDG-5070Ⅱ／Plusに決定した」（浜咲取締役）。

現在、DG-5070Ⅱ／Plusを操作するのは、生産管理課 係長の杵築誠氏。これまではDTPオペレーターの担当で、カッティングプロッターの操作は初めてということだが、「すぐに動かせるようになった」と簡易な操作性を評価。また、設定も数分で完了するため他の業務との兼務が可能なようで、「空いた時間に戻ってきて、ボタンを押すだけでも、カメラで最大5つまで再開できる。設定さえしておけば、誰でも作業できる」（杵築係長）と多能工化にもつながることを評価のポイントだという。

杵築 係長

また、同社では手動のカッティングプロッタも保有しているが、「手動と比較すると3～4倍のスピード」（杵築係長）。そしてカッティング精度についても、カメラで最大5つまでトンボを読み込むため、正確なカッティング精度を実現する。さらに振動刃が付いているため、厚い段ボールでも簡単にカッティングすることができるという。

高品質でスピーディーな折りとカッティングを実現する

筋入れは、クライアントからも「折りやすい」と評価

そして、カッティング精度だけでなく、クリースで強く筋入れできるため、折りやすいこともDG-5070Ⅱ／Plusの評価できるところだという。某クライアントから、サプリメントを入れるための「初回限定パッケージ」を初めて受注し、200個納品したところ、大変に喜ばれたようだ。

そのクライアントではこれまで、郵便局のクラフトボックスにサプリメントを入れて顧客に送付していただけであったが、展示会で同社のパッケージを見て、高級感のあるパッケージを作りたいということで、トントン拍子に話が進んだという。佐々木部長は「難しかったのは、箱の高さが低いので、きちんと折らないと製品にならないということ。その点、DG-5070Ⅱ／Plusはきっちりとした折り目をつけることができ、カッティングプロッターとしての威力を発揮してくれた」と評価する。このようなパッケージはシート状で納入し、素人であるクライアントが自分で折ってパッケージを組み立てるため、きちんと折れるかが重要なポイントであるという。

これにより、同社は新しいクライアントとの良好な関係を構築することができた。顧客満足度の向上により、リピートオーダーにもつながることが期待できる。

オリジナルパッケージをPRする浜咲取締役（右）と佐々木部長

紙の高付加価値を創造し、新たな商品開発へ

同社は今後も「Indigo12000」を中心に、そこから波及する高付加価値なニッチな市場への進出に挑戦を続ける。浜咲取締役は「紙で伝えられるものはもっとあるはず。情報伝達だけでなく、人の心を動かせる可能性が紙にも残されているということを創造し、伝えていきたい」とビジョンを話す。

「DG-5070Ⅱ／Plus」の導入は、同社にとって単なる設備投資にとどまらず、クライアントとの関係を深め、新たな価値創造のステップになったと言えるだろう。同社は今後もクライアントニーズに応えるための商品開発とサービス向上に注力し、印刷業界の新たな価値提供者としての地位を確立していく。

モリサワ

10%オフキャンペーンも

Morisawa Fonts

シンガポールで開始

㈱モリサワ（森澤彰彦社長）は、2月29日から英語対応のインターフェイスを実装したサービスサイトを公開し、シンガポールに向けてフォントサブスクリプションサービス「Morisawa Fonts」の提供を開始した。5月31日までの期間中、新規購入ユーザーを対象とした10%OFFキャンペーンも実施する。

Morisawa Fontsは、2000書体以上が使えるモリサワのフォントサブスクリプションサービス。「文字とつながる。世界がひろがる。」をタグラインに、定番書体からデザイン書体までプランに収録されたすべてのフォントを、デバイスに依存しないユーザー単位のライセンスで利用できる。フォント管理はもちろん、契約手続きもオンラインで完結でき、場所を選ばない新時代のワークスタイルをサポートするものだ。

2022年にスタートした同サービスは、日本国内向けのサービスを提供してきたが、海外での利用ニーズも多いことから、英語版のインターフェイスを実装してシンガポール向けに提供を開始する。

日本とほぼ同様の書体ライブラリーが利用できるため、シンガポールにも拠点を持つ企業や現地在住のデザイナーとのクリエイティブワークにおいて、フォントを含んだデータの受け渡しが容易になるほか、便利なフォントコレクション機能を使うことで、より効率的な共同作業が可能になる。

同社では、「Morisawa Fontsは、国内外を問わず統一されたフォント環境を提供し、国境を越えたクリエイティブワークの実現に貢献していく」としている。

富士フイルムSS

迅速な証明書交付が評価

Digi田甲子園で内閣総理大臣賞

富士フイルムシステムサービス㈱（本社／東京都新宿区、井上あまね社長）は、このほど内閣官房が主催する「Digi田（デジでん）甲子園2023」民間企業・団体部門で優勝し、「内閣総理大臣賞」を受賞した。これは、同社が提供する「罹災証明迅速化ソリューション」を通じて、災害発生時の自治体による罹災証明書交付の迅速化に貢献したことが評価されたもの。

「Digi田甲子園」は、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が、地方公共団体、民間企業・団体などがデジタルの力を活用して地域課題の解決等に取り組む事例を幅広く募集し、特に優れた取り組みを内閣総理大臣賞として表彰するもの。

「Digi田甲子園2023」には、全国から240件の応募が集まり、書類選考やインターネット投票、審査委員会による審査を経て、受賞者が選ばれた。

今回、同社は、災害を経験した自治体の知見と富士フイルムグループの画像処理技術等の組み合わせによって開発した「罹災証明迅速化ソリューション」において、実災害時に住民の復興に必要となる罹災証明書の交付にかかる時間を短縮した実績が評価された。

災害によって家屋に被害を受けた住民は、被害状況に応じて自治体から罹災証明書が交付されることで、復興に向けた援助を受けることができる。

しかし、過去の大規模地震などの災害時には、罹災証明書交付に数ヵ月かかるケースも発生している。

同社は、罹災証明書交付に時間がかかる要因として、交付までの業務が人手や紙帳票を用いた多くの手間がかかるアナログなプロセスで行われていることに着目。「罹災証明迅速化ソリューション」の提供によって、被害調査の計画策定進捗管理や被災現場での被災度調査などにかかる工数・期間を約50%削減することができる。

全抜き・半抜き・筋押しをワンパスで対応。パッケージの試作、オリジナルパッケージの小ロット製造に最適。

自動給紙付きプロッターカッター

DG-5070（標準刃モデル）　/　DG-5070Plus（振動刃モデル）　【最大カットサイズ:530×750】
DG-4060（標準刃モデル）　/　DG-4060ⅡPlus（振動刃モデル）【最大カットサイズ:400×600】

シート、ラベル、コートボールなどの紙器を自動給紙、カット、排出処理を全自動で行います。
異なるカットデータに対応できる、QRコードスキャナー機能搭載。

標準刃モデルは、2.0mmまでの紙類、0.3mmまでのフィルムを給紙・カットが可能。
振動刃モデルは、電動振動刃が標準装備されており、6mmまでの各種ボードのカットが可能です。
オートフィーダーへのペーパーセットは120mmまで可能。
※素材にもよりますが、厚い素材は基本手置きでの対応となります。
※カット厚さは、素材により異なります。カットテストは常時行っておりますのでお問い合わせください。

カッターヘッドには、全抜き刃・半抜き刃・筋押し刃及びオプションで振動刃が取り付けられています。
刃のセット替え無しで、カットと筋押しをワンパスで行えます。

QRコードを読み取ることで、カットデータファイルを自動で切り替え。
カットデータのロードが間違いなく行え、異なるカットを連続処理できます。

デモ・サンプル作成いたします。お気軽にお問い合わせください。

本社及び東陽町ショールームで実機見学可能です。

株式会社トヨテック
TOYOTEC CO., LTD

〒278-0015 千葉県野田市西三ヶ尾77-2　TEL:04-7121-0755　FAX:04-7121-0740
URL:http://www.toyotec-intl.co.jp　✉ sales@toyotec-intl.co.jp